

## 不老川の河川浄化活動

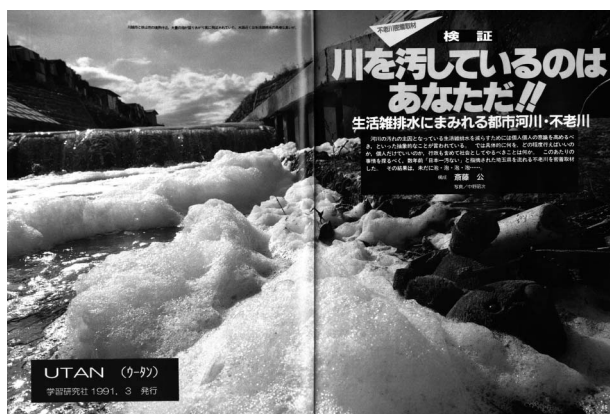
不老川をきれいにする会

### 「不老川は縁起のよい川です」

東京都西多摩郡瑞穂町の狭山ヶ池の伏流水の湧出水が源流で、全長18.5キロの小さな川です。しかし、瑞穂町の1.5キロは普通河川で、都県境の大橋から埼玉県の入間・所沢・狭山・川越を経て新河岸川に合流する17キロが1級河川になっています。かつては清流で川の中で子供たちが自由に泳ぎ自分たちの現在の思いや将来について語りあった大切な人間形成の場でした。また、上流の同県入間市宮寺地区では、新潟から酒造りの人を集めてきれいな水からお酒を作ったほどです。いまでも流域の農家には酒造りの道具や石うすなどが保存されています。このほか、流域には穴あきの5円貨を地藏様に奉納して夜泣きの子供をどうかなおしてくださいとたのむと全治するとか、夢をかなえてくれる夢地藏様や、男性はわらじをあんで地藏様に奉納、女性は赤い腰巻を地藏様に巻きつけて、それぞれからだの痛みをなおして下さいとたのむと、男女とも腰や足更に下腹部の痛みもなくなるという霊験あらたかなお地藏様などがあって願ひごとをかなえてくれる縁起のよい川と言われています。ところが、この川は、かつて節分のころ（2月3日のこと）になると、どういう訳か川の水が涸れて皆無になり、春先きまで水が流れなかったことから、古老たちはこの川のことを不老川ではなくて「としとらず川」と呼んでいます。その証拠には、狭山市内の橋げたの左岸と右岸に漢字で不老橋、ひらがなでとしとらず橋ときぎまれている小さな橋が残っており、この橋の下に水が皆無になった川の中で節分の日に一夜を明かすと年を取らずにすんだという伝説まであります。とにかく、節分のころ年をとらずにすんだという伝説が残っているからには、この川は縁起のよい川なのでしょう。

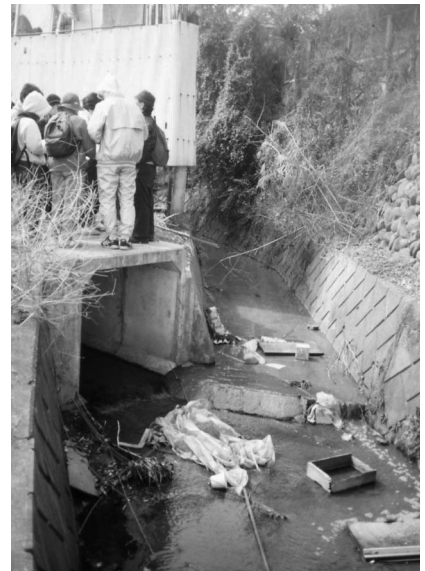
### 「なぜ清流から日本一汚い川になってしまったのか」

人口急増の昭和45年ごろから流域に住宅が次々建てられ川岸がコンクリート化した上にこの川に面した16号国道の建設で湧き水が激減、加えて23万人もの人が住むようになり生活排水が垂れ流しになって、みるみる汚れたのです。とうとう昭和58年から3年連続で川の中のBOD（生物学的酸素要求量のこと）100ppmを超えて日本一汚い川になってしまったのです。



### 「こうやって24年浄化活動を継続して清流に近づくきれいな川になりました」

新聞やテレビが一斉に不老川が生活排水の垂れ流しで日本一汚い川になってしまったと報道したのがきっかけで、私は何とか昔のような清流に甦ら



せようと思ったのです。当時私は毎日新聞社を定年退職して狭山市自治会連合会の会長をしていた関係で、不老川流域の31自治会長に「みんなで協力して昔の清流に甦らせよう」と呼びかけました。31自治会長は「新井さんがやるなら協力するよ」とすぐにOKの返事をしてくれました。そこで、行政の狭山市と「川の中のゴミは私たちが引き揚げるから処理は市です」という約束を取り交わしました。更に流域の企業と学校の協力も求め、流域31自治会の住民13500人を中心に官企民一体のネットワークをつくり、流域自治会からは1自治会当たり年額5千円の負担金をいただき活動資金にすると共に「流域住民から生活排水を不老川に流してもよい。その代わり年額3000円を納入しろ」といって不老川流域の私たち住民から3000円を納入させていた県の出先機関である不老川土地改良区という事務所はおかしいと埼玉県環境部に申し入れ、この不老川土地改良区を解散して、ボランティアで昔のようなきれいな不老川にしようとして昭和60年12月7日、不老川をきれいにする会（以下当会）を結成して浄化活動をスタートしました。ところが川の中にはオートバイ、自転車、ドラム缶、カーブミラー、廃材、ラジオ、布団などの生活用品から、犬、猫、子豚の死がいまで捨てられた上に、洗剤の白い泡だらけの下には捨てられた生活排水とヘドロがかさなって流れ、悪臭の漂うゴミの塊のような川でした。私は胸まである魚釣り用の長靴をはき一人で川の中に入り、これらのゴミにロープを巻き付けて岸まで運び岸辺の人たちに協力を求めて引き揚げたのです。これを狭山市公

害対策係長の横山実氏（現上下水道部参事）と市の職員がトラックに積み込み処理したのです。引き揚げては捨てられ、また引き揚げて処理するというイタチゴッコの連続で10年間ぐらいは本当に苦労しました。狭山市はこれを見て当会に100万円の補助金を支給して激励してくれました。さて、私はこの解決策として罰金2万円付きのゴミのポイ捨て防止市条例の原案を作り市議会に提案、平成11年6月の市議会で可決され10月1日施行されました。これを経て不老川のゴミ処理に全力投球すると共に、川に面した自治会から20名の監視員を選び、昭和62年4月から毎月一回第4日曜日に早朝パトロールをしてゴミ処理に当たり、現在まで23年間継続すると共に昭和62年5月の第3土曜日からクリーン作戦を現在まで23年間継続、1300人も参加者を集めて盛大に実施、流域27小中学校には総合学習の一環として行っている環境倫理教育の補







助として出前語り部に出かけたり、不老川を体験的倫理学習の場（ボランティアのこ）にしたり、二軒の大型養豚業者（いずれも1000頭を超える養豚業者です）の廃業と転業指導（一軒は自分の土地だったので先ず廃業と同時に食品業者の貸倉庫にして成功、次は県道に面した自分の土地に5階建てのマンションを建設（1階を貸店舗、2・3・4階を貸住宅、5階を自分の部屋）にしてこれも成功、新井さんと激論したけど廃業してよかったと感謝された。もう一軒は借地で、私の家の近くだったので悪臭に悩まされました。「いきなり廃業か。俺は、昔から営業しているのに金も出さずに後から住んで廃業して出て行けなんてふざけるな」と卵とにわとりの論争7年、この地主との話がまとまり、豚舎跡地は地主の79台収容の車の駐車場となり、養豚業者は100坪の土地を無償でもらい住宅を建てた。私はご主人を下水道工事店に就職させて一件落着。奥さんが突然化粧品販売の事務所に早変わり10名の店員を使って大忙し、なんとか円満解決しました）。この二軒の大型養豚業者が廃業したことで流域の養豚農家も養豚をやめて本業の農業と狭山茶の製造に力を入れるようになり自然に家畜公害が解消、川の浄化が順調に行われるようになったのです。努力はしてみるもの、いまではこの二軒のかつての大型養豚業者も川の浄化に協力するようになり私は感謝の気持ちでいっぱいです。このほか、川に面した狭山市南入曽の市立山王中学校入口にある堤防沿いの県有地（約300坪）に県と協議して維持管理は当会ですという約束で、「とすとらず公園」をつくり花壇と遊歩道も併設、不老川のシンボルにすると共に、不老川の歌も作り総合的な浄化を促進して市民ぐるみの清流復活に努力しました。平成2年5月と平成15年5月には

NHKのテレビ番組「生活排水はこうすればきれいになる」と「地球大好き環境メッセージ大集合」の番組で会の活動などについて狭山市の新井悟樓さんとネーム入りで紹介され、全国的に話題となりました。また、この活動方針を上流の入間市と所沢市、下流の川越市の団体にも呼びかけて、不老川浄化市民団体連絡会を結成、上流から下流まで一貫した浄化活動にしたうえに埼玉県も加えた官民一体の生活排水対策推進協議会も作りました。行政はこれに応じて国が不老川を生活排水の重点河川に指定、清流ルネッサンス21（21世紀までに清流に復活させる計画で下水道処理水の還流（川越市の下水処理水場で浄化高度処理した下水処理水のこと）を12.5キロ上流の狭山市中原橋までポンプアップして毎秒0.45トン川に還流しましたが、21世紀までに清流の復活が実現出来なかったために同ルネッサンスII（2のこと）できめこまかな河川改修工事、生活排水対策、浄化施設の建設などをして流域住民の協力を求めています。これらの諸工事で国と埼玉県は374億円ものお金を投じており、私は行政に対して深い感謝の気持ちでいっぱいです。こうした官企民一体の努力から23年目の浄化活動が実り、狭山市の入曽橋ではBOD（生物化学的酸素要求量のこと）が4.3ppmで清流間近のきれいな川に生まれ変わった次第です。当会では、試行錯誤の繰り返しをしながらこれまでに不老川の歌を作り10年と15年の甦れ不老川の記念誌を発行して好評を受けております。平成22年には、25周年記念誌を発行、DVDのビデオの歩み





も製作する予定です。「継続は力なり」が当会のモットーです。朝夕には不老川べりを散策する若い人や老夫婦の姿が多く見られ、特に春の桜シーズンには連日花見のグループがつめかけうれしい限りです。さて、私はこれまでの浄化活動について時々反省するのですが、全国の河川浄化団体の活動を見ると国の行政指導型で流域の行政（市や町のこと）とは無関係で議論を主としていると思われる多自然型川づくりの市民団体や、環境に関心のある人だけの会など様々ですが、当会は流域31自治会の住民を中心に行政（国と県流域の市）企業、学校とネットワークを作って住民主導型のボランティア浄化団体です。流域の31自治会には13500人が住み、私たちの浄化活動に協力してくださる人もいれば逆に批判中心の人もいて様々です。だから個人の会費はいただかないで自治会から年5000円（1自治会あたり）の負担金を納入してもらい、どなたでも自由に活動に参加していただいております。批判する人にはなぜ批判するのか、意見を聞き当会の活動状況を説明すると、よくわかったとご理解していただいております。どこの市町村でも地元民と新住民の意見は時々対立することがあります。狭山市の場合も同じで新住民の場合は当初大変です。しかし、一緒に活動しているうちに5年から10年たてば仲よくなれます。「ならぬ堪忍するが堪忍」がモットーです。さて、浄化活動を始めるには、活動資金はもちろん大切です。当会のように運営すれば浄化活動はスムーズに進み長続きします。ところで川のことをよく

考えてみると、森などの湧き水の源流と海は恋人のようなもので川はその海まで運ぶ恋文役みたいなもののようにも考えられます。更に進んで考えると、川は行政と住民の共有財産のように思います。また、私たちは日常生活をしていることで被害者であると共に加害者である訳です。これまでの当会の活動を振りかえってみると官企民一体で進めてきた生活排水対策と浄化活動が一致して日本一汚い川と言われた不老川が魚も棲みカモの飛来するきれいな川に生まれ変わった訳で理想的な住民主導型のボランティア団体だと思っている次第です。こんな方法でいろんな河川浄化団体との交流を深めて、よい点をお互いに取り入れて活動すれば日本の川が昔のようなおいしい水の源と言われるような気がするのですが全国の河川浄化団体の皆さんはどのように考えていますか。よいアイデアがありましたら私あてにご意見をお寄せ下されば幸いです。

#### 「今後の課題が大変です」

日本一汚い川と言われた不老川が当会の浄化活動で清流間近のきれいな川に甦りヒゴイ、マゴイ、ヘラブナ、マブナ、ギバチ、カワムシ、クチボソ、ヤマベ、ウグイ、ナマズ、ドジョウ、ザリガニなど沢山の魚が棲みカモも飛来、朝夕は散歩する人たちでにぎわうようになりました。川の中では、当会の念願だった親子が水遊びして、子供の将来についてもお互いに語りあうという人間形成の大切な場にもなってきたようにも思えてうれしく思っている次第です。しかし、こうしたうれしい出来事の中で、スイスイ泳ぐ中型の魚をこっそり釣りあげて持ち去る人も時々見うけられるようになり、釣りの現場を見つけては「魚を放流中なので釣った魚は川にもどして下さい」とお願いします。最近ではその看板も川岸に作って取り付けると共に埼玉県に対応を問い合わせたところ「漁業権があります」という回答だが、どうすればよいのかについては回答がありません。更に、国の行政指導型の市民浄化団体からは「川がきれいになったのだから下水処理水の還流は中止しろ」という意見も出されてこまっているのが現状です。中流の狭山市流域には湧き水がほとんどない状況で下水処理水を中止されては川の水が激減して沢山の魚

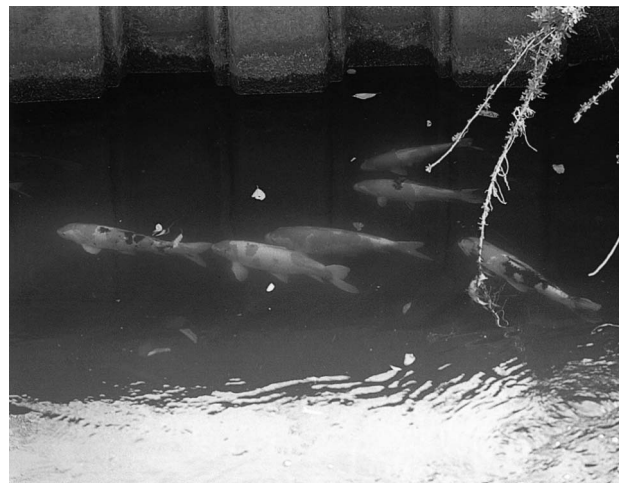


が死んでしまいます。私は、3月下旬さいたま市の埼玉県教育会館で開かれた清流ルネッサンスIIの会議で下水処理水を中止されては狭山の不老川の魚は死んでしまうぞ、とんでもない」と力説した次第です。魚が沢山棲み魚釣りをしてもOKのような状態になるまでは魚釣りに対して厳しく監視するつもりです。国ではどのように考えているのかご意見を賜りたいものと思っている次第です。全国の河川浄化団体代表の方でよいアイデアがあったらぜひご意見を私あてにお寄せ下さい。よろしく申し上げます。



**養豚業者の廃業と転業の労苦も  
今はなつかしい思い出です。**

日本一汚い川になってしまった不老川をなんとかして昔の清流に甦らせようと、不老川をきれいにする会を昭和60年12月7日結成して浄化活動を始めた当初から真白い生活排水のたれ流しの下の部分に悪臭の漂う汚い水が流れてゴミのかたまりのようになっていたのです。流域の住民から年あけて昭和61年の春になっても「くさくてたまらない、窓もあけられない。不老川の会長は原因を早急に調べて



悪臭公害を解消しろ」と批判されたのです。

一人で川の中に入ってこの汚いゴミを処理しているうちに大雨が降ると、犬や猫、子豚の死がいから人間のし尿まで流れて処理後消毒するのも大変でした。埼玉県からは「狭山市入間公民館（現在は入曽センター内入曽公民館）内の出先機関である不老川土地改良区（所長1人職員3人が勤務）と相談してくれ」というだけで、時々川の汚濁調査はしたが白昼だけで夜はしなかった。加えてこの出先機関も汚濁解消は全くせず、逆に生活排水を不老川に流す費用として年間3000円を納入しろと納入通知書を流域住民に配布した。私たちは公共下水道が出来ていなかったので建築許可を川越土木事務所（現在の川越県土整備事務所）からいたたく際に不老川土地改良区と相談して生活排水を不老川に流せるように排水溝を作ると共に年額3000円を納入していたのです。しかし、「私はなぜ生活排水対策をしないで不老川の汚濁解消もせずに3000円を納付するのか不思議に思って埼玉県環境部と農務部畜産課に抗議してこの不老川土地改良区を解散し3000円の納入も解消してボランテ





ィア活動として流域31自治会を中心に、流域住民13500人と企業、学校、狭山市とのネットワークを作ると共に、狭山市とは「川の中のゴミは私たちが引き揚げるから処理は市です」という約束を結んで官企民一体の活動をしたのです。さて、問題の汚い悪臭の漂う水はどこから流れ込むのか、私は早朝と深夜一人で不老川べりを時々単独パトロールした結果、自宅近くの1000頭を超える養豚業者Sさんの豚舎から豚のし尿が垂れ流しになっているのを確認、同時に入間市と狭山市の境にある「としとらず橋」きわの1000頭を超える養豚業者Nさんの豚舎からも豚のし尿が垂れ流しになっている事実をつかんだのです。早速ゴミ処理の専任者で不老川の清流復活に協力している狭山市公害対策係長の横山実氏（現在の上下水道部参事）に協力を求めて、廃業と転業の話し合いを行いました。横山氏は公害係長として他にも仕事があったため話し合いは私一人の時が多かったのです。Nさんは、豚舎の敷地が自分のものだったので食料品の倉庫業への転業をしながらの廃業は、当初「私有財産に文句をつけるな帰れ」とすごく反対だったが比



較的高い家賃で食品業者の貸倉庫話が順調に進み「体を汚さずに金が入る」とニンマリ、その後西武池袋線武蔵藤沢駅近くの県道沿いにあった私有地に5階建てのマンションを作り、1階を貸店舗、2階から4階を貸住宅、5階を自宅にしたところ、間もなく入居がいっぱいになり、「新井さん貴方とケンケンガクガクの口論して廃業と転業に反対してすまなかった。実は廃転業してよかったと思っているぜ」と重なる喜びの挨拶をいただいた。しかし、脳梗塞で倒れ自宅でベッドに寝たままの生活をしているようです。奥さんに面会を求めましたが「夫が病気なのでと断られた次第。早く全治して私との不老川の清流復活話を喜んでもらいたいものと思っている次第です。さて、次の自宅近くの1000頭を超える養豚業者のSさんは豚舎の土地が借地だったことからものすごく反対され「金も出さずに廃業して出て行けとはひどい。俺は電気もない時から不老川べりに住んで豚で生きてきたんだ。後から住んで先に住んでいる俺に意見する資格はない。殺してやるぞ。狭山市自治会連合会の会長をしているんだから金ぐらい出せるだろう。」





と連日ものすごい態度で廃業に反対したのです。こうして私との口論は毎日のように続き最後は卵とにわたりの論争にまで及びました。しかし、「この豚の家畜公害を解消しなければ生活排水対策だけではきれいな川にならない」こう確信して私も負けずに廃業をくどいたのです。7年後の平成4年4月4日になって地主との話し合いで、豚舎は地主が処理して79台収容の駐車場を作る。1台月額7900円だから相当な収入になる。そのかわりにSさんには330平方メートル（百坪）の土地を無償であげる」ということで話し合いが決まり七年ぶりで円滑に一件落着となったのです。ところがSさんの就職話が私に寄せられました。知り合いの市議会議員と相談して狭山市内の下水道工事の業務手伝いに就職が決まり、やれやれ円満解決となった次第、しかし、奥様がなかなかの「やり手」であつという間に自宅わきに2階建てのP化粧品販売事務所を作り、その初代所長に就任、10人の若い女性販売員を使って汚れ養豚業生活から女性の美しさを願う

化粧品販売の道に早変わり、大変な繁盛ぶりで悠々自適の生活。こうして平成4年4月Sさんは7年ぶりで廃業下水道工事の手伝いもやめて不老川べりの自分の畑で野菜作りにいそしむ生活。このSさんの廃業で不老川流域の養豚農家も次第次第に養豚を廃業して農業中心の野菜作りと狭山茶作りに専念するようになり自然に家畜公害も解消、川の浄化もこれと併行して進行し、清流間近のきれいな川に生まれ変わったという訳で「努力はしてみるもんだ」と一人で喜んでいる次第です。私は青春時代にソ満国境虎林独立重砲第十一大隊（通称3102部隊）の幹部候補生で関東軍の少ない生き残り。戦後の昭和23年毎日新聞東京本社に入社昭和55年3月19日定年退職するまで新聞記者としてペンで日本の再建に尽くしてきた者です。84歳になりますが不老川が完全に清流に復活するまで頑張るつもりです。だからこの苦労も今はなつかしい思い出になっています。



平成17年度 花いっぱい咲いたまフラワーコンテスト 地域部 優秀賞

団体名 不老川をきれいにする会（狭山市）

<p><b>取組内容</b></p> <p>「継続は力なり」、「遠隔後代」、「日々是好日」の3点をスローガンに、コソツ20年の努力が実ったのです。昭和62年から流域自治会を中心に監視員（20名）を任命。毎月第4日曜の早朝パトロールをする一方、同年春から毎年1回（5月下旬）不老川のクリーン作戦を実施、参加した1500人の市民と会場を提供してくれた山王中学校の先生と生徒の協力で、川の浄化と一緒に堤防もきれいにすれば、ゴミの不潔投棄も少なくなり、自然に川がきれいになると確信しての20年でした。流域の小中学校に出前講義部に出かけて、身近な不老川を地域の環境学習の場（ボランティアのこと）にして、浄化活動を継続、行政・流域・自治会、学校、企業とのネットワークが生まれ、下水処理水の清流はきれいな川になり、とらぎ公園の美化で自然に堤防もきれいな川になりました。</p>	<p><b>取組場所</b></p> <p>狭山次郎入替 山王山中 堤防のすぐそば</p>  <p>平成17年5月21日行った不老川をきれいにする活動18回クリーン作戦。【参加者1,200人】</p> <p><b>活動規模（面積など）</b></p> <p>遊歩道ベンチ西側（あずまや） 付きの花壇 約200坪</p>
<p><b>植えている花（花木）</b></p> <p>花：スイセン、マリーゴールド、キク、ノースポール、ハナシシラン、ハーブ、ヒマワリ、コスモス、パンジー、アサゲ、ヒメパンパ、ヤマユリ、フリソウ、日々草、フヨウ 花木：サルズベリ、サクラ、ボケ、ツツジ、サツキ、クチナシ、モクセイ、アジサイ</p>	<p><b>活動人数・取組開始時期</b></p> <p>参加者：約70人（監視員、流域自治会長など役員一同） 開始時期：昭和60年12月ころ～</p>
<p><b>きっかけ（経緯）</b></p> <p>日本が一番汚い川になってしまった（BODが100PPMを超え）不老川を、清流に甦らさるには堤防も作り直す必要と、浄化活動を始めた昭和60年12月7日から流域住民に呼びかけたのがきっかけで、とらぎ公園を遊歩道とするの思いがけいようという事が、自然に生まれたのです。現在も毎月1回、第4日曜の早朝パトロールは行っています。</p> <p>当初は犬の糞、タバコの吸殻、空き缶、自転車、オートバイ、布巾、廃材などの生活用品から犬・猫・子豚の死体まで捨てられ、堤防に引き揚げたまま捨てられ、これを呼び寄せ揚げたというイタチゴッコの連続で本当に苦労したものです。現在も川の中や堤防に不法投棄はありますが、くんと少なくなっています。小学校から一貫した環境学習と、家庭でも生活マナーの充実が大切だと思います。</p>	 <p>花が咲いて川面に映る風景は素晴らしいです。堤防と後の遊歩道があり、その景観が印象的です。</p> <p><b>善後面・工夫した点</b></p> <p>不老川の清流復活を前に、堤防沿いの河川敷地に作らず公園を美化して、不老川のシンボルにすれば自然に堤防がきれいになり、川の浄化と一緒に市民の憩いの場になると確信して、花壇の整備に力をいれましたが、折角植えたサツキや花を抜き取ったり、遊歩道の石をはがして川の中に投げ込み、河川のきれいさを妨げると、いやがらせやいたずらも発生して苦労しました。流域の各小中学校にも連絡して懇話を求めた結果、堤防にたどり着いたずらも少なくなりました。「継続は力なり」を合言葉に、行政、流域自治会、学校、企業とのネットワークでの活動の協力が実ったようです。</p>
<p><b>取組の特長（セールスポイント）</b></p> <p>流域の31自治会の協力を行政、学校、企業とのネットワークで川の浄化と一緒に堤防をきれいにしてきたこと。市民団体と、下流の川越の浄化団体に呼びかけて、平成元年2月15日不老川浄化市民団体を結成。更に行政の埼玉県、所沢、入間、狭山、川越4市町と一緒に活動出来るようになり、上流から下流まで統一した川の浄化と共に、堤防の美化に力を入れてきたことが私たちの取組の特長です。地味なことですが、これが20年継続してきた活動力になっています。住みよい街づくりが環境をよくすることのキーポイントではないでしょうか。</p>	

不老川をきれいにする会 新井悟樓